

「高知県橋梁会平成24年度第3回研修会」報告

高知県橋梁会理事

濱田 博人

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成24年度第3回研修会が、去る12月12日に高知市本町の高知会館「飛鳥の間」で開催された。

研修会では、会員や企業による道路橋示方書改訂について、予防保全技術工法、橋梁の大型補強・補修施工事例、高知工業高校の生徒による研究発表、福井照 国土強靱化総合調査会事務総長による国土強靱化についての説明の5テーマについて講演を行なった。年末を迎え、何かと多忙の時期にもかかわらず官公庁や会員・関係企業58名が参加し、有意義な研修会が行なわれた。

■研修会（13：30～17：20）



右城会長による開会の挨拶

冒頭、右城会長より「県内の建設コンサルタントの業務受注が順調で多忙である。又、先日の中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故により、維持管理時代の幕開けのような出来事が発生した。本日の研修会は維持管理と関連があるテーマであり、ぜひ実りあるものにして欲しい。」と開会の挨拶があった。

（13：30～13：40）



堀内 達斗氏による講演

1番目の講演は、(株)ピーエス三菱の堀内達斗氏から、「道路橋示方書コンクリート橋編の改訂について」説明があった。

まず共通編について ①末尾の字句および用語の表記 ②維持管理に関する規定の充実等4項目・コンクリート橋編について ①鉄筋に関する事項 ②かぶりに関する規定等7項目 細部にわたり説明があった。（13：40～14：30）



原田 徹氏による講演

2番目の講演は、ショーボンド建設(株) 原田徹氏より、「最近の予防保全技術工法材料について」と題して、最近開発したクラックチェッカー工法（中性化防止にひび割れ追跡機能を付与）、クリアクロス工法（はく落防止にひ

び割れ追跡機能を付与), PVM 工法 (耐久性向上には劣化因子の侵入抑制, はく落防止機能を含む) について紹介があった。(14:30~15:00)



高知工業高校生による講演



岡林理事による講演

3 番目の講演は, 高知工業高校土木科 3 年生西内君, 安岡君, 安井君, 山中(智)君, 山中(啓稔)君, 吉村君の 6 名により「高知市の橋梁長寿命化に関する研究」と題して発表があった。

調査を行った 36 橋について, 健全度の数値化という手法を取り入れ, 健全度の分析を行うという工夫も見られ, この経験を今後の進路設計に役立てたいとの決意があった。

なお, 当講演に先立ち, 岡林理事より 11 月 23 日に高知工業高等学校で行なわれた「第 6 回高校生橋梁模型コンテスト」の競技内容・総評があった。(15:00~15:15)



金子 鉄男氏による講演

4 番目の講演は, (株)ワイ・シー・イー金子鉄男氏により「大型補強改良工事とその事例」と題して大型橋梁の補強・補修施工事例について説明があった。金子氏の実験の経験に基づく講演は, 内容が濃く 約 400 名の作業員を動員しての橋梁補強工事説明は, 本講習会の参加者に強いインパクトを与えた。(15:25~16:55)



福井 照氏による講演

5 番目の講演は, 国土強靱化総合調査委員会事務総長 福井照氏より「国土強靱化について」説明があった。

災害には自然災害と人為的災害があるが, いかなる災害が起きようとも, 国民の命と財産を守ることは政治の責任である。東日本の復旧は道半ばである。さらに広域的に大災害

発生（南海地震）の恐れが大である。強靱な国土の建設は急務である。10年を超えるデフレ不況脱却のため、強靱な経済、社会・産業構造をつくりあげなければならない。強靱な国土の建設のため都市と農村が共に繁栄するための社会資本の整備を急がなければならない。等 時間を超過して熱弁をふるった。
(17:00~17:20)



熱心に聴講される参加者



乾杯の音頭をとられた西岡南海男顧問



中締め挨拶をする森下理事

■忘年会 (17:30~19:30)

研修会に引き続き、会場を平安の間に移して恒例の忘年会が行われた。

参加者は35名であった。



右城会長の挨拶



「居酒屋赤たぬき」で二次会

以上